新規就農者の誘致と遊休農地の解消

生駒市農業委員会

1.生駒市の農業の概要

生駒市は、奈良県の北西端に位置し、周囲約60km、面積53.18km²を有しています。大阪府と接する西に標高642mの生駒山を主峰とする生駒山地が、東に矢田丘陵と西の京丘陵があり、北東部は京都府と接しています。

市域内には、近鉄奈良線、近鉄けいはんな線、近鉄生駒線、ケーブルカーの鉄道網が縦横に走り、道路も東西に阪奈道路、第二阪奈有料道路、国道163号、308号など、南北に国道168号などが整備され、大阪、奈良、京都の中心部へのアクセスが一層便利になっています。自然環境の良さや交通の利便性から人口が増加しており、平成26年4月現在で約12万1000人余と、県下で3番目となっています。

本市の農業については、農地面積が651haで、農家戸数は約1,000戸ですが、そのほとんどが兼業農家です。また、遊休農地の割合は17.8%に達しています。

なお、どの地域でも抱えている問題ですが、農業従事者の高齢化と世代交代により担い手が減少しています。

その他、地形的には平坦部が少ないことから、圃場や農道等の整備・保全が困難な箇所が多いこと、またイノシシをはじめとする獣害が多く発生しがちであることも、遊休農地が増加する要因となっています。

2.新規就農者の誘致と農業振興にむけた新たな取り組み

①具体的な取り組み内容

本市では農業従事者の高齢化に伴う農業離れ、遊休農地化、また、担い手不足等の対策として新規就農者の誘致を積極的に行い、農業の活性化を図っています。

本市における農業の特性としては、農業振興地域が無く、圃場整備、農道整備も不十分なところが多く見受けられることに加え、特産品がないなど農業自体もあまり盛んではないことから、新規就農希望者に「農業そのもの」をアピールするのではなく、全国の市を対象にした「住みよさランキング」総合評価で全国34位・関西4位といった「子育て支援」の充実や交通の利便性等、まち全体のPRを前面に押し出し、都会と農業の融合をテーマとした新規就農を呼びかける手作りのチラシとともに、生駒市をPRするためのリーフレット「育マチ、生駒」を各種イベント等で一緒に配布し、新規就農者の誘致活動を実施しています。

その結果、昨年度までの数年でたった3名だった新規就農者が、今年度は既に10名を超える問い合わせがあり、そのうち3名が新規就農され、現在も数名の方が、その新規就農にむけた就農計画の作成や農地賃貸借の交渉といった取り組みを進められているという現状です。

なお、新規就農希望の増加に伴い、新たに貸し出し可能な農地の確保も必要になることから、地

元農業委員を中心に、より積極的な情報収集に努めるとともに、機関誌等を通じて農家の方々に広く呼びかけを行っているところです。

また、ややもすれば閉鎖的になりがちな農村社会の中で、女性や若者にも農業に感心を持ってもらい、新しい感覚で農業の活性化を図っていこうと、初の試みである「農作業着ファッションショー」を生駒市農業祭において、市若手職員有志の企画、運営により開催しました。15分間のステージでは、機能性に優れたカラフルな農作業着が華やかに披露され、たくさんの方々に賞賛をいただきました。

農業祭ファッションショー

農業委員研修会

次に、農業委員研修では、市内の農業者を招いて、奈良県の事業である「県内大学生が創る奈良の未来事業」において最優秀賞を受賞した、奈良女子大学大学院のグループに、「楽しく健康！健楽（けんぎょう）農業で遊休農地を有効活用」という演題で講演して頂きました。また、講演の後には、普段接する機会の少ない学生達と意見交換や情報の収集を行いました。その中で、学生の農業に対するイメージ、将来像等について理解を深めることができ、新たな農業振興施策の展開につなげることができる研修になりました。

一方、遊休農地解消活動では、特定農地貸付法に基づき、遊休農地やそのおそれのある農地を農家の方から無償で借り受け、希望者に無償で貸し出す他、平成24年度から農業委員の有志により遊休農地を開墾して作付けを行い、市内の子どもたちに収穫体験をしてもらっています。また、その後は、特定農地貸付法により貸し出すことも行っています。

農業委員による遊休農地解消活動
（収穫イベント）

②本市における今後の農業施策

本市では、農業振興地域がなく、農地中間管理機構による集積化も利用できないことから、大規模な農地での農業を進めるのではなく、小規模ながら持続可能で効率的な農業経営を推進していくことが必要であると考えられます。

また、遊休農地がこれ以上拡大しないよう、農業委員が率先して指導や実践を行うことにより、将来的に遊休農地が限りなくゼロに近づくよう努力を積み重ね、元に戻った農地を活用し、新規就農の拡充や市民農園等として非農家の農地利用を広げていくことで、今後の生駒市における農業発展に尽力していきたいと考えています。